

「栄町通散策ツアー」ルートガイド

2019/11/30

【1】 旧外国人居留地順路

(83→24→15→8→10→12→(107)→(108)→(118)→(103)→(102)→(101)→(91)→(77)→(92)→(97)→(58)→26→45→44→4→3)

1. No. 83 (83 番館) ジャーディン・マセソン商会

(現・三宮センチュリービル)

香港に拠点を置くイギリス系の商館。明治中期には、107 番館に店を構えていたが、明治 37,8 年頃、83 番館に移転。鈴木商店は、藤田助七商店と共に、同商会から洋糖（中華火車糖局糖）の引取を初めていた。

現在の三宮センチュリービルの前には、居留地地図と同商会跡のモニュメントが残されている。また、同商会の建物の一部（レンガ造りの塀と門柱）は、北野（中央区北野町）の一角に移築されている。



ジャーディン・マセソン商会跡碑



北野に移築された門柱・同商会の門柱説明プレート



2. No. 24 (24 番館) キルビー商会（イギリス系）、旧・横浜正金銀行神戸支店

(現・神戸市立博物館)

居留地最初の競売によって借地権を得たのは、イギリス系のキルビー商会。24 番のほか、13,14,23,105 の区画を取得。昭和 10(1935)年、横浜正金銀行神戸支店として竣工。

昭和 57(1982)年、神戸市立博物館開館。

3. No. 15 (15 番館) (現：旧居留地十五番館)

鈴木商店とは関係がありませんが、旧居留地に唯一現存する居留地時代（1868 年～1899 年）の建築物で、国の重要文化財です。



元々は、仏系ホテル～旧アメリカ合衆国領事館～江商（現・兼松）～ノザワ（神戸の建築材料メーカー）の所有となるも阪神・淡路大震災により全壊（平成 7(1995)年）～平成 10(1998)年復元

4. No. 8 (8 番館) オットー・ライマース商会 (現・神港ビルディング)

ドイツ系商館。鈴木商店は、樟腦の“先物の売約”（旗売り＝空売り）で大損が発生。同じドイツ系商館のシモン・エバース商会との間で解決したことから、オットー・ライマースその他の商館とのトラブルを全て解決したという逸話が残されています。



現在の“神港ビルディング”は、経済産業省の認定する「近代産業遺産」に指定されています。昭和 14(1939)年、川崎汽船本社として竣工。現在も川崎汽船の登記上の本店となっています。アールデコ調の塔屋が見どころ。

5. No. 10 (10 番館) 鈴木商店海岸通本店 (現・デビスビル&ベルク)

元々は、居留地最初の建物としてグッチョー商会（ドイツ系）の倉庫として建設された。その後同じドイツ系の H.A レンス商会が使用。居留地返還後、大正 7(1918)年 8 月 12 日、米騒動による焼き打ちで東川崎町の本店を焼失した鈴木商店は、大正 9(1920)年より昭和 2(1927)年まで、“海岸通本店”としていた。



現在の旧 10 番館跡は、アウトドア商品の LL ビーンが入居するデビスビル（デビスパーキング）の約半分部分とポルシェセンター神戸が建つ部分に相当する。

6. No. 12 (12 番館) イリス商会 (現・NTT 西日本神戸中央ビル)

ドイツ系商館。安政 5(1859)年に横浜、長崎（出島）で創業したクニフラー商会が前身。明治 13(1880)年、共同経営者だったカール・イリスが経営権を引継ぎ、イリス商会と改称。1890 年、カール・イリスは、ドイツに戻り、ハンブルグに本社を移した。

鈴木商店は、イリス商会からドイツ甜菜糖を輸入している。後年、鈴木商店に入社した同商会出身者には、初代ロンドン支店長・芳川荀之助、香川潔がいる。



今日の（株）イリス（東京）は、イリス商会の後身としてドイツからの輸入機械の専門商社で、現存する在日外資系企業として最古の歴史を誇る。余談ながら、イリス商会は、皇居二重橋の正門鉄橋の設計・施工した会社でもある。

7. No. 107、108 (107 番館、108 番館) ジャーディン・マセソン商会 (現・神戸・甲陽音楽 & ダンス専門学校 (107)、パタゴニア神戸が出店するダイヤDYRE108(108))

ジャーディン・マセソン商会が神戸居留地に進出したのは、明治初期のこと。当初は、ブラウン商会 (26 番館) を通じて、ジャーディン・マセソン糖を日本に輸出していたが、やがて直接神戸に進出、明治 15 年



No. 107 番館跡



No. 108 番館跡

には、107,108 番館に店を構えていた。明治 37,8 年頃には、83 番館に拠点を移している。鈴木商店は、藤田助七商店と共に、同商会から洋糖 (中華火車糖局糖) の引取を始めている。

同商会は、業容の拡大に伴い、居留地内の所在地を移転、拡張している。(58 番館)

8. No. 118 (118 番館) フィロンセー商会
(現・神戸ポート郵便局)

イギリス系商館。バターフィールド&スワイア糖の輸入代理店。鈴木商店、藤田商店が主な引取先。



9. No. 103 (103 番館) バターフィールド&スワイア商会
(現・建泰ビル)

イギリス系商館。明治 20 年頃、居留地に支店設置。創業期の鈴木商店と藤田商店は、同商会から香港車糖の主要引取商となった。



現在の建泰ビルには、アウトドアファッションブランド “Eddie Bauer” が出店している。

10. No. 102, 101 (102 番館、101 番館) シモン・エバース商会 (現・三共生興スカイビル)

ドイツ系商館。金子直吉が樟腦の空売り (先物取引) で大失敗し、同商会のほかともトラブルに発展。同商会とは “ハラキリ騒動” の末、円満解決に持ち込んだ。これを機にオットー・ライマース商会を始め全ての商館との問題が解決した。



11. No. 91, 77 (91 番館、77 番館) ラスペ商会 (現・神戸銀行協会ビル(91)、神栄ビル(77))

ドイツ系商館。我国の特産品の薄荷に強い関心を示したことから、鈴木商店創業期の主要品目の一つとなった。



鈴木商店は、明治 42(1909)年、同商会出身のエミール・ポップと合弁で「日本商業」を設立。その後、鈴木商店の全額出資となり、鈴木本体で扱いの少ない品目を中心に事業展開を進めた。岡本良太郎、井田亦吉、森衆郎は、同商会出身者。

12. No. 92 (92 番館) ヘリア商会 (現・神戸ルミナスホテル三宮)

イギリス系商館。代表フレデリック・ヘリア(Frederic Hellyer)

明治 14 年、居留地に進出。日本から茶の輸出を手掛け、97 番館に茶の加工場(再加熱)を設けていた。(再加熱のための煉瓦積みのカマドや建物の基礎部分が発掘された)



13. No. 97 (97 番館) ヘリア商会 (現。神戸市役所 4 号館)

現・神戸市役所 4 号館 (危機管理センター)



ヘリア商会跡プレート



神戸市役所 4 号館

14. No. 58 (58 番館) ジャーディン・マセソン商会 (現・三井住友銀行)



15. No. 26 (26 番館) ブラウン商会 (現・旧居留地 25 番館 ; オリエンタルホテル、ルイ・ヴィトン)

英国系商館。明治 7,8 年頃、ジャーディン・マセソン商会の代理店としてジャーディン・マセソン糖(中華火車糖局糖)を大阪市場に輸入、鈴木商店、藤田助七商店が中心となって引取り。



16. No. 44, 45 (44 番館、45 番館) スミス・ベーカー商会
(現・神戸御幸ビル (44) ,THE FORTY FIFTH(45))

米系の商館。



神戸御幸ビル



45thビル

17. No. 3, 4 (3 番館, 4 番館) スミス・ベーカー商会 (現・海岸ビルディング(No.3) ,
新明海ビル (N0.4)

米国系商館。スミス C とベーカーの共同出資で出発。居留地最初の競売により No.3&4 区画を取得、石造倉庫が建てられた。

保険会社代理店のほか、茶・樟脳などの輸出、陶器、石油の輸入を手掛けた。明治末期までこの地区で営業活動を行い、3 番館は大正に入り、三井物産（神戸支店）に譲渡。スミス・ベーカーは、44&45 番館に移転。



4 番館 (新明海ビル)



3 番館 (海岸ビル)

3 番館は、大正 7(1918)年、河合浩蔵の設計による 4 階建て建物に建て替えられた。(海岸ビル) 其の後建て替えられた現・海岸ビルの 1-4F 部分は、国登録有形文化財に指定されている。

【2】栄町通鈴木商店

<鈴木商店の本店移転推移>

- ① 弁天浜創業 (明治 7(1874)年) →②栄町通 4 丁目 (?～明治 37(1904)年) →
- ③栄町通 3 丁目(明治 37(1904)年～大正 5(1916)年)→④東川崎町(大正 5(1916)年～大正 7(1918)年) →⑤海岸通 (大正 9(1920)年～昭和 2(1927)年)

本日の散策ツアーでは、ルートの関係上、栄町通 3 丁目本店跡、4 丁目本店跡、東川崎町本店跡の順に巡ってまいります。

1. 鈴木商店栄通 3 丁目本店跡 (No. 3) (現・プロシード神戸元町 (旧・コスモコート栄町通))

神戸・栄町通 4 丁目に拠点を設けた鈴木商店は明治 35(1902)年、個人企業から合名会社に改組して「合名会社 鈴木商店」が誕生する。代表社員・鈴木よね、社員・金子直吉、柳田富士松の布陣で鈴木商店が始動する。合名会社を機に本店社屋を栄町通 3 丁目に移転した(明治 37(1904)年)。



元々は横浜正金銀行・神戸支店として建てられた建物（明治 13(1880)年）で、レンガ造り 2 階建ての洋風建築。（「松方・金子物語」より）その後同建物は、三菱合資（銀行部）（明治 30(1897)年 4 月）、鴻池銀行・神戸支店（明治 33(1900)年 12 月）を経て、明治 37(1904)年 4 月 1 日より鈴木商店の新社屋となった。

鈴木商店は、東川崎町に移るまでここを拠点とした。なお、この建物は昭和 20(1945)年 5 月、戦災により焼失した。

2. 三井銀行神戸支店跡（旧・第一勧業銀行神戸支店）

（現・ライオンズタワー神戸元町）

銀行、証券会社、保険会社の洋風で重厚な建築が軒を連れ「東洋のウォール街」と呼ばれる程の繁栄を誇った栄町通の中で、ひと際目立った「三井銀行神戸支店」の建物は、大正 5(1916)年、長野宇平治設計によるイオニア式列柱が特徴で、“神戸のパルテノン神殿”とも呼ばれた。



同建物は、その後第一勧業銀行神戸支店となったが、阪神淡路大震災により倒壊、その跡地に、2009年9月、大京・オリックス不動産により「ライオンズタワー神戸元町」（33 階建て）が建てられた。三井銀行時代のイオニア式列柱をイメージした地上部分をファサードに蘇らせた。

3. 鈴木商店栄町通 4 丁目本店跡（No. 2）（現・乙仲通り）

神戸・弁天浜で創業した鈴木商店が、栄町通に進出し、明治 35(1902)年、合名会社に改組するまでの個人商店時代の拠点を置いたのが栄町通 4 丁目。（栄町通 3 丁目に移転したのは、明治 37(1904)年）



しかし栄町通の表通りでなく、乙仲等、海運業者が多く軒を連ねた“乙仲通り”の一角であった。

「乙仲通り」は、神戸市中央区の“栄町通”と“海岸通”の間を東西に通っている約 800m の通り。現在の乙仲通りには神戸中華街やポートタワー、神戸海洋博物館などがある海岸エリアに近く 270 件のお洒落な店や昔ながらのビルディング、カフェ、アトリアなどがある。

4. 鈴木商店東川崎町本店跡 (No. 4) (現・パークホームズ神戸ザレジデンス)

神戸栄町通を拠点に業容が拡大した鈴木商店は大正5(1916)年、後藤回漕店・後藤勝造が東川崎町に増設したみかどホテル新館を買収し、新本社屋とした。(大正5年2月6日付移転広告 神戸又新日報)



みかどホテルは、建築家・河合浩蔵の設計によるコロニアル風の瀟洒な木造3階建ての建物で、大正7(1918)年の米騒動による焼き打ち事件で焼失するまで、鈴木商店の本店として鈴木飛躍の舞台となった。

5. 鈴木商店モニュメント

鈴木商店記念館は港町神戸繁栄の基礎の一端を築いた鈴木商店の歴史的価値を後世に伝えるため、2017年、神戸開港150年を記念して鈴木商店発祥の地でもある神戸に「鈴木商店モニュメント」を建立しました。7月7日(金)には除幕式および贈呈式を執り行い、神戸市に寄贈しました。



モニュメントの説明文は、神戸外国人居留地研究会理事長で元・神戸大学副学長を務められた神木哲男先生に検証頂きました。また、モニュメントの制作は、徳島の陶板名画美術館で有名な「大塚国際美術館」を運営する大塚製菓グループの「大塚オーミ陶業」に依頼しました。

6. 亀井堂総本店

明治7(1874)年、ハーバーランドのはずれの“弁天浜”に創業した洋糖引取商・鈴木商店の鈴木岩治郎とその前年の明治6(1873)年、元町に創業した亀井堂総本店の松井佐助は、互いに創業以来、切磋琢磨して店の発展に尽くしたと記されている。亀井堂は、鈴木商店創業期の砂糖の最大の得意先であった。

